

# セミナーのお知らせ

**演 題** : 「アルファウイルス様粒子を用いた  
ワクチン開発 米国ベンチャー、  
ベンチから臨床へ」

**演 者** : 赤畑 涉 博士  
(VLP Therapeutics 最高経営責任者)

**日 時** : 2016年9月6日(火) 10時~11時

**場 所** : 微生物病研究所本館1階 微研ホール

ウイルス様粒子(Virus Like Particle、VLP)は、正常のウイルスと同様の粒子構造を持つが、ウイルスゲノムを含まないため感染性をもたない。このため、安全で効果的なワクチン候補として、近年、様々な分野でVLPを用いたワクチン開発が進んでいる。アルファウイルスに属するチクングンヤウイルスは、2005年から東南アジアを中心に流行しており、そのワクチン開発においてもVLPワクチンが有効であると証明され (Akahata et. al. *Nat Med*, 2010)、現在、第2相臨床試験が行われている。我々はこのアルファウイルスVLPの表面に外来抗原を提示させることにより、抗原特異的抗体を誘導し、様々なワクチンに応用できる新しい技術を開発している (inserted alphavirus VLP, i- $\alpha$  VLP)。このi- $\alpha$  VLPは、1つのVLP上に480個の外来抗原を、高度な対称性と密度を保ちつつ提示することができる。そのため、免疫個体において、B細胞による抗原認識が効率よく行われ、抗原特異的抗体の産生量を非常に高める特徴を持つ。今回の発表では、i- $\alpha$  VLPの技術を、がん及びマラリアワクチンに応用した前臨床データと、2017年に予定しているマラリアワクチン臨床開発について紹介したい。

お問い合わせ先 : 微生物病研究所 BIKEN 次世代ワクチン協働研究所  
ワクチン動態プロジェクト 青枝大貴 内線 9107